

函南町立西小学校

令和3年度第3号

学校だより

夢や希望をもち
ともに未来を拓く
西っ子



【学校教育目標】 夢や希望をもち ともに未来を拓く 心豊かな子どもの育成

体中で喜び、体中で悲しむ

校長 久保田正基

1学期も早折り返しの6月になりました。5月には交通安全教室、引き渡し訓練、奉仕作業を行いました。そして、29日(土)には、運動会を開催することができました。コロナ禍の行事と言うことで、できる限りの感染症対策をし、保護者の皆さまにも、1家庭1名の参観をお願いしました。延べ385名ものご参観をいただきました。ありがとうございました。子供たちの頑張っている姿をご覧いただけたことと思います。今回の運動会で「西っ子」が成し遂げた様々な力を、さらに大きくしなやかに、それぞれの「夢づくり」に向けて全教職員で取り組んでまいります。

さて、私自身、校長という立場にあり、数えてみれば、4月5月の登校日34日中に21回の出張。しかし、学校にいられる日、子供たちの様子を見るたびに感じたのは、4月同様どの学級も、とても落ち着いていることでした。校長不在の日が多いなか、教頭を中心として、教職員の努力があつてのことには間違いなく、心より感謝しています。

教職員と子供たちとのやりとりを見ていますと、子供たちが落ち着いていて、一生懸命やっているからほめるのか、ほめるから一生懸命やるのか(そのもとには、もちろん家庭、教職員の日常的な指導があつてのこと)、おそらく両方相まつてのことだと思うのですが、「いいねえ」「上手だねえ」、あるいは「がんばれ!」「できるぞ!」という言葉をよく耳にします。

ある先輩校長の学校だよりに「ポケットの中身」と題して紹介された中に、「先輩のある方から教わった『先生の心得』の一つです。先生方のポケットに入れておかなくてはいけない言葉があります。子供に対する『さすが!』という言葉です。親や校長のポケットも同じですね。入っていますか。」とあつたのを思い出します。

また、「子供は、どの子も自分を認めてもらおうと、信号を送っている。その信号に応え、芽を伸ばすためには、ほめるだけでなく、喜ぶことであり、しかるのではなく、悲しむことである。口先だけでなく、体中で喜び、体中で悲しみを表現するとき、子供は喜びの方向に伸びる。」「子供が求めているのは、口先のほめ言葉でなく、先生が(親が)本気で喜んでおられるということです。草木が太陽の方向に伸びるように、子供は喜びの方向に伸びるものなのですね。口先だけのおだてでなく、体中で喜ぶことに努力しましょう。」とは、戦後の教育家東井義雄氏の言葉です。

ほめることと甘やかすこととは違います。どうほめるのか、ほめ方が課題です。テクニックではなく、「大人の本気を子供に伝える」こと。そのためには、「人生の先を行く者としての、心のあり方、価値観が問われている」ようにも思えます。

6月1日(火)から第2ステージが始まりました。第2ステージ(きらきらステージ)のめあては、「よりよい生活になるために話し合おう」です。それぞれの学年で行事も控えています。変わらぬご支援をお願い申し上げます。

